

京都大学大学院 教育学研究科
教育実践コラボレーション・センター主催



2012. 8.18(sat) → 20(mon)
全国スクールリーダー育成研修

E.FORUM 2012



Q. 「E.FORUM」とは？

A.

広く教育に関心を持つ人々の

「広場」

です。

研究科長よりご挨拶

生涯学習とは文字通り生涯学び続けることであるとすれば、教える専門家である先生方は、いつ、どこで、誰によって、何を、どのように、学び続けたいのでしょうか。

E.FORUMはこの困難な問いかけにひとつの答えを仮説として投げかけています。

つまり、E.FORUMは、京大において、教育学などの最前線の研究や世界の教育動向の最新の知識や技術を学ぶ場であるにとどまりません。自ら学びたいという意思を持った先生方が自発的に寄り集まって、ともに直面している問題を出し合い、ともに考えようとする、まさに、フォーラム(広場)なのです。

ここで自ら学んだことを持ち帰り、教育の現場に試してみる、そしてまたその実践を、成功や失敗も含めて仲間と多様なチャンネルを使って検証しあう—という持続的、継続的なサイクルのなかで学び続けること、それが、他ならぬE.FORUMの望むところです。このダイナミズムのなかで、学ぶことの難しさと楽しさを、存分に味わっていただくことを願ってやみません。

前平 泰志(京都大学大学院教育学研究科長)

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー(教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど)の育成・力量向上が急務となっています。そこで京都大学大学院教育学研究科では、2006年度より「E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修」を実施しています。今年度は以下の研修を行います。本研修には、教員志望の京都大学学生の参加も受け付けます。

I. スクールリーダー育成のための基礎講座

日 程： 2012年8月18日(土)・19日(日)・20日(月) (3日間)

※19日は「学校教育研究フェスタ」を兼ねています。

※1日目・2日目のみの参加も受け付けています。

対 象： 全国からの希望者 80 名程度 (先着順)

II. 学校教育研究フェスタ

日 程： 2012年8月19日(日)

対 象： E.FORUM 会員とその紹介者など 計 100 名程度

会 場： 京都大学吉田キャンパス内
(詳細は裏面の地図をご覧ください)

参加ご希望の方は、申込用紙(E.FORUM ホームページからダウンロード可能)にご記入の上、メールまたは FAX で事務局までお送りください(定員になり次第締め切ります)。

参加費

2 日以上：5,000 円(京大生 3,000 円)

1 日のみ：3,000 円(京大生 2,000 円)

当日に受付でお支払いください。

※ 懇親会に参加をご希望の方は、懇親会費(3,000 円)が必要です。

※ お弁当(一個 1,000 円)をご用意できます。

お問い合わせ先： 京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 Fax: 075-753-3033

E-mail: e-forum@educ.kyoto-u.ac.jp

(申込用紙はホームページからダウンロード出来ます。)

URL: <http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>



E.FORUM

検索

スクールリーダー育成のための基礎講座 <1日目>

2012年8月18日(土)

会場:文学部新館(第3講義室)

9:00-9:30	受付		(担当者)
9:30-10:00	オリエンテーション		
10:15-12:00	ワークショップ	(どちらか一方を選択)	
12:00-13:30	昼休み	A:「カリキュラム設計:パフォーマンス課題の作成と活用」	西岡 加名恵
13:30-15:45	ワークショップ	B:「思考力・対話力を育てる教材開発: 総合博物館を探究する」	大野 照文 石井 英真
16:00-17:30	講義「子ども・規範・暴力 — 鯨の絵本にみる<教育>と<非-教育>の間—」		山名 淳
18:00-20:00	懇親会 (会場:京大時計台前カフェレストラン『カンフォーラ』 参加費:3,000 円)		

※ お弁当・懇親会参加をご希望の方は、受講申し込みの際にお申し出の上、当日に代金をお支払い下さい。
キャンセルは8月6日(月)までにご連絡をお願い致します。

ワークショップ

A:「カリキュラム設計: パフォーマンス課題の作成と活用」

思考力・判断力・表現力などを評価・育成するために、今、パフォーマンス評価が注目されています。本研修では、典型的なパフォーマンス評価の方法であるパフォーマンス課題の作り方を体験的に学んでいただくとともに、ルーブリック(評価指標)の活用方法についてもご説明いたします。

ご希望の学年・教科の教科書、学習指導要領など、単元指導案づくりに役立ちそうな資料をご持参ください(教員研修の計画づくりをしていただくことも可能です)。

ワークショップ

B:「思考力・対話力を育てる教材開発: 総合博物館を探究する」

「総合的な学習の時間」などで博物館を探究するといった機会は少なくありません。博物館で楽しく有意義に学ぶには、どのような学習活動や教材を用意すればよいのでしょうか。

ワークショップ B では、京都大学総合博物館をフィールドとして、自然科学分野の展示物を題材に、見学の際に使うことができる教材づくりに取り組みます。これを通じて、「博物館利用」という文脈を超えて、また、自然科学分野に限らず、知的探究の本質に触れ思考力や対話力を育む能動的な学び(「教科する」授業)をデザインする汎用性のあるスキルを磨くことを目指します。

※定員 30 名

講義「子ども・規範・暴力

— 鯨の絵本にみる<教育>と<非-教育>の間—

教育はさまざまなパラドックスに満ちています。たとえば、子どもたちを脅かす暴力性から彼らを保護するはずの教育的な営みが図らずも暴力性を帯びる場合などは、その一例といえるでしょう。本講義では、教育の原初形態である鯨の問題に注目します。具体的には、規範を子どもたちに与えようとしてつくられた鯨の絵本およびその歴史を解釈することによって、教育のパラドックスの根幹に迫ります。

昨年度の受講者の声

(写真は昨年度の研修の様子です。)



「学ぶことを捉える＝学校教育の枠をはずして多様に捉えてみるきっかけを教えてもらい、全国からいらした先生方と交流できたことが良かった。」
(教育委員会指導主事)

「授業改善や指導力の向上で手が回らないと思うのですが、自分の未来のための研修になったと思います。実践できるような教師にならなければと思いました。」
(小学校教諭)

「校内研修を活性化させるためのCC」活用はとても参考になりました。もう一度勤務校の課題を洗い出して実態に即した研修の方向を見定めたいと思います。」
(中学校教諭)

「全教員に有用な講義と、各分野に分かれての具体的な研修が組み合わされている点が良い。」
(高校教諭)



学校教育研究フェスタ / スクールリーダー育成のための基礎講座 < 2 日目 >

8 月 19 日(日)

会場:文学部新館(第 3 講義室)

9:00- 9:30 受付

(担当者)

9:30- 9:50 オープニング(研究科長ご挨拶) & 自己紹介タイム

10:00-11:30 講演「21 世紀における図書館—学習空間を考える—」

川崎 良孝

11:30-13:00 昼休み ※お弁当をご希望の方は、受講申し込みの際にお申し出下さい(キャンセルは 8 月 6 日まで)。

13:00-16:00 教科等別分科会(実践報告 & 実践交流)

下記参照

16:15-17:00 全体討論・質疑応答

講演「21 世紀における図書館

—学習空間を考える—

学校同様、社会における公共の学習空間として存在している図書館。実は、場所としての図書館は消滅すると言われたりします。これは 1960 年代の初期から言われており、1990 年代後半からは特に電子環境の発展にともなって論議が高まりました。こうした論議に図書館はさまざまな具体策を講じています。

これらの主張も踏まえて、図書館の基本的価値は何で、歴史的にどのように展開し、現在ではどのような状況にあるのかを紹介します。中立的に思われる図書館が、いかに社会の動きと密接に結びついているのか検討することを通して、社会における学習空間が持つ意味を考えてみたいと思います。



教科等別分科会 (実践報告 & 実践交流)

興味のある教科等ごとのグループに分かれ、実践報告・研究報告の後、参加者が持ち寄った実践資料を交流していただきます。

ご希望の教科等の実践資料をご持参ください。(基礎講座一日目のワークショップ A・B に参加される方は、その成果物を紹介・検討していただく時間となります。)

配布資料の印刷をご希望の場合は 8 月 6 日(月)までに原稿(A4 判 8 ページまで)を事務局にご送付ください。印刷して持参される場合は、50 部(参加者全員への配布を希望される場合は 200 部)をご用意ください。

① 総論 担当:西岡 加名恵 (会場:文新 1 講)

- ◆研究報告:体育科のパフォーマンス課題
北原 琢也(元・京都橘大学教授)
- ◆実践報告:教員研修
三藤 あさみ(横浜市教育委員会 指導主事)
- ◆実践交流:芸術・実技系教科、総合、教員研修など

② 国語 担当:八田 幸恵 (会場:教育 8 演)

- ◆実践報告
小学校:宮本 浩子(鳴門教育大学附属小学校 教頭)
高等学校:渡邊 久暢(福井県立若狭高等学校 教諭)
- ◆実践交流

③ 社会 担当:鋒山 泰弘 (会場:教育 7 演)

- ◆実践報告
小学校:奥田 成美(加西市立北条小学校 教諭)
中学校:藤島 俊幸(元・福岡教育大学附属福岡中学校 教諭)
- ◆実践交流
福岡県教育センター 指導主事)

④ 算数・数学 担当:石井 英真 (会場:教育 5 演)

- ◆実践報告
神原 一之(広島大学附属東雲中学校 副校長)
- ◆共同研究発表:京都市立高倉小学校の取り組み
大下 卓司(京都大学大学院教育学研究科 大学院生)
- ◆実践交流

⑤ 理科 担当:中池 竜一 (会場:文新 2 講)

- ◆実践報告
小学校:高橋 正人(香川大学附属高松小学校 教諭)
小学校:山岸 朋子(金沢市立中央小学校 教諭)
中学校:井上 典子(京都市立京都御池中学校 教諭)
- ◆実践交流

⑥ 英語 担当:赤沢 真世 (会場:教育 4 演)

- ◆実践報告
高等学校:村田 和世(兵庫県立宝塚北高等学校 教諭)
小中連携:西山 由美(京都府中丹教育局 指導主事)
- ◆実践交流

全体討論・質疑応答

最後に、全体討論を行います。

各グループで出された疑問を整理するとともに、2 日間の成果と、今後の課題について考えます。

交流

から生まれる

「共有知」



▶「プロジェクトS」

E.FORUM では、研修の場を提供するだけでなく、そこから生まれた新たな知見を発信していきたいと考えています。

2009 年に始動した「プロジェクトS」では、全国の会員の先生方とともに、スタンダード作りに取り組んでいます。スタンダードとは、社会的に共通理解された目標＝評価基準です。本プロジェクトでは、各教科における重点目標とは何かを探り、包括的な「本質的な問い」・「永続的理解」について議論していくとともに、学校を超えて使えるパフォーマンス課題を開発し、さらには児童・生徒の作品を分析して学年を超えた発達を捉える長期的ルーブリックを開発していきたいと考えています。過去二年のフェスタでは、教科等ごとに『「スタンダード作り」基礎資料集』に蓄積された知見を検討するシンポジウムを行いました。

『「スタンダード作り」基礎資料集』の内容は「カリキュラム設計データベース(CDDDB)」(※次項参照)に蓄積され、E.FORUM 会員はいつでもご覧いただけます。

昨年度の受講者の声

(写真は昨年度の研修の様子です。)

講演「教育を『江戸』から考える」 (担当・辻本雅史)について

『子どもたちはまねをしながら身体で習得して心がめばえてくる』『言葉は心のいれもの』という言葉がとても印象に残りました。話のつづきをもっとお聞きしたいと思いました。」
(小学校教諭)

『学びの復権』は十年以上も前に出会い、深い感銘を受けたことを覚えています。それまでの教育観を大きくゆさぶられました。今日は先生から直接お話を伺えて本当によかったです。」(小学校管理職)



シンポジウムについて

「教科の基礎、基本とは何か。何のために教科が存在するのかについて考えているところで、『新しい能力』や二十一世紀のスタイルの話題は、新たな可能性を感じるものでした。」
(小学校教諭)

「初日の抽象的な話題だけで終わっていたら、具体的なイメージが作りづらく実行しにくかったと思いますが、このセッションで教科の具体例が紹介されたことで、理解が大きく進みました。」
(所属先無記入)



笑顔

に繋がる

実践力。

用語解説

「本質的な問い」とは？

カリキュラムや教科の中心にあり、探究を促したり、本質的な内容を看破することを促したりするような問い。単元全体を貫いたり、単元を超えて繰り返し問われたりするような問いである。

「永続的理解」とは？

数年たつて詳細を忘れた後でも身に付けておいてほしいような、重要な理解。「永続的理解」は、学問の中心にあり、新しい状況に転移可能なものである。また、教室の中だけでなく、生活場面など様々な状況において価値を持つような理解である。

「パフォーマンス課題」とは？

複数の知識やスキルを、状況の中で総合して使いこなすことを求めるような、複雑な課題(レポートやプレゼンテーションなど)。「真正の」パフォーマンス課題では、リアルな文脈(あるいはシミュレーションの文脈)において知識やスキルの活用が求められる。

「ルーブリック」とは？

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、各レベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語から成る評価基準表。自由記述問題やパフォーマンス課題など、O×で採点できない評価方法での採点指針として用いられる。

スクールリーダー育成のための基礎講座 <3日目>

8月20日(月)

会場: 学術情報メディアセンター(メディア演習室 203)

9:00- 9:30 受付

(担当者)

9:30-11:30 演習『『カリキュラム設計データベース(CDDDB)』と『E.FORUM Online』の活用』

中池 竜一
松井 保樹
西岡 加名恵

11:30-12:00 クロージング

『カリキュラム設計データベース(CDDDB)』と『E.FORUM Online』の活用

「カリキュラム設計データベース(CDDDB)」/「E.FORUM Online」の機能についてご説明するとともに、研修の成果内容等を入力していただきます。

- ※ パソコンの台数に限りがあるため、定員は50名となります。
- ※ ユーザー名として、ご自身のパソコンのメールアドレスを用います。受講前にご用意ください。登録されたメールアドレスには、今後の研修のご案内等が自動的に届くことになります。
- ※ 申込完了時にお送りする「カリキュラム設計データベース(CDDDB)/E.FORUM Online 登録証」を忘れずにご持参下さい。

昨年度の受講者の声

(写真は一昨年度の研修の様子です。)

「マニュアルが丁寧でとても分かりやすく、使いやすかったです。また、他の方々のデータが残っているのは本当に宝だと思います。私もその一人に早く入ることができるといいなと頑張っています。」
(高等学校教諭)

(中学校教諭)



「カリキュラム設計データベース(CDDDB)」とは？

大幅リニューアル準備中！
(「E.FORUM Online」として開設予定)

E.FORUM では、会員の方が開発された様々な実践資料を継続的に蓄積・共有するため、「カリキュラム設計データベース(CDDDB)」を開設しています。CDDDB に蓄積された単元指導計画(パフォーマンス課題やルーブリックを含む)は、会員が日常的に活用し、実践に役立てることができます。また、寄せられたご質問に対し、講師が回答するサービスも行っています。

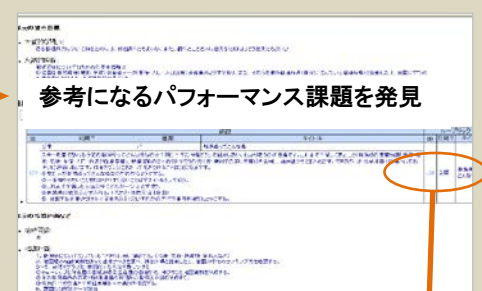
「スクールリーダー育成のための基礎講座」を受講された方は、CDDDB が利用できる「E.FORUM 会員」として自動的に登録されます(会費は無料、退会はいつでも可能です)。



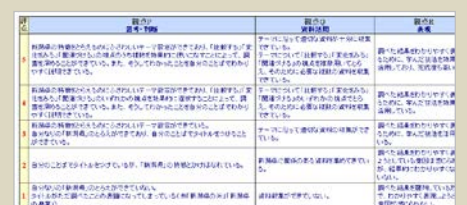
E.FORUM のホームページ
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>



掲示板での交流



ルーブリックへのリンク



指導案、ワークシート、児童・生徒の作品例など、各種資料の添付機能もあります。

発言例:『単元ID148にいま授業でやっている課題について書き込みました。アドバイス・コメント等お願いします。』

リンクをクリックすると、その単元のページが開きます。

講師紹介

Ohno Terufumi

大野 照文

京都大学総合博物館 教授



小さい頃から好きだった化石やその他、様々なモノを調べる研究の楽しさを、とりわけ子ども達に伝えることに情熱を燃えています。その経験をもとに皆さんと一緒に博物館を伝える取り組みをします。

主な著書:『博物館で学びの起こるとき』『だれもが楽しめるユニバーサル・ミュージアム』(読書工房、2006 年)、『澄江生物群化石図譜』(監訳、朝倉書店、2008 年)など。

Kawasaki Yoshitaka

川崎 良孝

京都大学大学院教育学研究科 教授



アメリカの公立図書館の歴史と現状をタイム・スパンを長くとって考えています。本研修が豊かな学校現場の構築に役立つことを願っています。

主な著書:『新たな図書館・図書館史研究』(京都図書館情報学研究会、2011 年)、『図書館利用者と知的自由』(京都図書館情報学研究会、2011 年)、『図書館の原則』(翻訳、日本図書館協会、2010 年)など。

Yamana Jun

山名 淳

京都大学大学院教育学研究科 准教授



教育哲学、教育思想史の研究に取り組んでいます。教育を通常とは別の角度で眺めてみることによって、現状の問題点と新たな展望を示すことを目指しています。

主な著書:『夢幻のドイツ田園都市ー教育共同体ヘレウの挑戦』(単著、ミネルヴァ書房、2006 年)、『キーワード 現代の教育学』(共著、東京大学出版会、2009 年)、『ドイツー「過去の克服」と人間形成』(共著、昭和堂、2011 年)など。

Hokoyama Yasuhiro

鋒山 泰弘

追手門学院大学心理学部 教授



学力形成と評価の方法について、主に日本とイギリスの比較を通して研究しています。本シンポジウムでは、社会科のスタンダード作りについて、提案致します。

主な著書:『授業と評価をデザインする:社会』(共著、日本標準、2010 年)、『学びのための教師論』(共著、勁草書房、2007 年)など。

Nishioka Kanae

西岡 加名恵

京都大学大学院教育学研究科 准教授



カリキュラム論・教育評価論に関心を持っています。本研修が、全国の先生方の有意義な交流の場ともなることを願っています。

主な著書:『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』(単著、図書文化、2003 年)、『「活用する力」を育てる授業と評価 中学校』(共編著、学事出版、2009 年)など。翻訳『理解をもたらすカリキュラム設計』(日本標準、2012 年)を刊行。

Akazawa Masayo

赤沢 真世

立命館大学スポーツ健康科学部 准教授



アメリカにおける入門期の英語教育において、特に基礎的なスキルの指導に注目しながらカリキュラムや指導方法のあり方を研究しています。また、このような視点から日本の小学校英語教育についても関心を持っています。

主な著書:『外国語活動ー子どもの実態を踏まえ、伝え合うコミュニケーション場面を設定する』(田中耕治編著『小学校新指導要録改訂のポイント』(日本標準、2010 年))、『阿原成光と英語教育』、『時代を拓いた教師たちⅡ』(日本標準、2009 年)など。

Ishii Terumasa

石井 英真

京都大学大学院教育学研究科 准教授



学力形成の理論と実践について研究しています。このような視点から算数・数学教育にも関心を持っています。本研修が、それぞれの学校のカリキュラム開発を支え励ますものになることを願っています。

主な著書:『現代アメリカにおける学力形成論の展開』(単著、東信堂、2011 年)、『パフォーマンス評価ー思考力・判断力・表現力を育む授業づくり』(共著、ぎょうせい、2011 年)など。

Hatta Sachie

八田 幸恵

福井大学教育地域科学部 准教授



教育方法学・教師教育論を専門に、教師の知識と学習過程およびその評価のあり方を中心に研究しています。教師教育の鍵は教師(大人)が主体として実践・学習を表現することにあると考え、その問題意識から、子どもの表現に関わる国語教育にも関心を持っています。

主な著書:『現代の教育改革と教師』(共著、東京学芸大学出版会、2011 年)、『よくわかる教育課程』(共著、ミネルヴァ書房、2009 年)など。

Nakaike Ryuichi

中池 竜一

京都大学大学院教育学研究科 助教



認知科学と教育学を専門に、科学教育を支援する教育情報システムの研究を行っています。「カリキュラム設計データベース(CDDB)」/「E.FORUM Online」の開発者であり、教科等別分科会では理科も担当します。本研修が、より質の高い指導案の作成や授業改善に役立つことを願っています。

主な論文:「認知科学の入門的授業に供する Web-based プロダクションシステムの開発」『人工知能学会論文誌』(共著、2011 年)など。

Matsui Yasuki

松井 保樹

京都産業大学附属中学・高等学校 講師



私立中学・高校で社会科(主に公民科目)を教えています。E.FORUMには初年度からお世話になり、「カリキュラム設計データベース(CDDB)」/「E.FORUM Online」のマニュアル作成に関わらせていただきました。全国の先生方とお会いできることを楽しみにしております。

運営担当:

宮嶋 由布

教育実践コラボレーション・センター 助教

黒田 真由美

教育実践コラボレーション・センター 研究員

小林 伸行

教育実践コラボレーション・センター 研究員

友尻 奈緒美

教育実践コラボレーション・センター 研究員

吉田 正純

教育実践コラボレーション・センター 研究員

李 霞

教育実践コラボレーション・センター 研究員

宮崎 宏江

京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局

会場案内

※京都大学ホームページ(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access>)もご参照ください。



※ 駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

- JR・近鉄 京都駅より
 - ・ 混み合うシーズンに一番早いルートは、地下鉄烏丸線で今出川駅まで行き、そこからバスかタクシーで移動する方法です。
 - ・ 市バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車。所要時間 約 40 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 25 分。
- 地下鉄烏丸線 今出川駅より
 - ・ 市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車。所要時間 約 15 分。
 - ・ 市バス 203 系統「銀閣寺通・錦林車庫」行「百万遍」下車。所要時間 約 15 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 10 分。
- 阪急 河原町駅(出口6番)より
 - ・ 市バス 31 系統「東山通 高野・岩倉」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ・ 市バス 201 系統「祇園・百万遍」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 15 分。
- 京阪 出町柳駅(出口4番)より
 - ・ 市バス 201 系統「祇園・みづ」行「京大正門前」下車。所要時間 約 5 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 5 分。
 - ・ 徒歩 所要時間 約 10 分

※ 宿泊については、各自で手配していただきますようお願いいたします。